

いよいよ最終回です。今回は直前まで本は決めていませんでした。書店で見つけようかと思いつき、偶然この本に出会いました。

本書に登場するのは17人の女性たち。人口減少や産業衰退、若者の流出といった地方で起こっているさまざまな課題に果敢に挑み、実績を上げている方々のロングインタビュー集です。

本を読んで感じたのは、皆さんとても未来志向だということ。例えば、オーガニックコットン製品製造販売・アバンティ(東京都)社長の渡邊智恵子さんは「セブンス・ジェネレーション」という言葉を紹介しています。「7世代後(350年後)のことを考えながら生活しなさい」という意味のネイティブアメリカンの言葉だそうです。豊かな自然環境を子孫に受け継ぐための知恵と教養に感銘を受けたと記しています。

日本のもの作りの伝統と技術を守りながら、地球の自然環境保全にも貢献する。「作り手、買い手、売り手、周り良しの四方良しの精神を実践」している渡邊さんには拍手を送りたいです。

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事の豊田雅子さんは「坂の町」として知られる尾道市で、長年放置された民家や商店をよみがえらせています。建物再生



カキは「ビジョン」と「仕組みづくり」!  
**地方を変える女性たち**  
 日経BPP社 麓 幸子

をまちづくりと位置付け、息を吹き返した空き家は20軒に上ります。イベントやワークショップ会場、ゲストハウスなどとして利用されています。

市から空き家バンク事業も委託され、マッチングがうまくいったことで、ファミリー層が次々と移住し、1年間に15人の子供が生まれたそうです。「子供が増えるのは地域にとっても希望」という豊田さん。人口減少が深刻な地方都市で、非常に価値が高いことだと思います。

普通、空き家が増えればどうしようという途方に暮れるでしょう。豊田さんは「負の遺産ではなく、地域資源の一つと言えます。自然、産業、農業...」その地域ならではのものに早く気付き、磨きをかけることが大事だ」とも。私にはこれまでにない発想



## 前向きに生きるパワー

で、とても新鮮に感じました。

「大成功より失敗しない」、勝ち負けではなく相互利益という意味の「ウィンウィン」など、ほかの女性たちからも心に残る言葉がいくつも出てきます。前向きに生きる人からはパワーをもらえますね。私自身、本を読んでから心に少し変化がありました。目の前の仕事に全力で取り組んできましたが、そろそろ地域貢献に目を向けてもいいかなと。私が好きな岡山市中心部を流れる西川緑道公園の有効活用などを考えるのも楽しそうかなと思っっているとこころです。

「男性はタテの論理で順番をつけたがる傾向がある」とは北海道で歴史的建造物の保存・活用をプロデュースする東田秀美さんです。「地方創生」や「地方活性化」の専門家は男性が圧倒的に多い中、上下関係がフラットで、共感・支援型の女性リーダーがこれからの時代、必要なのだと思います。元氣になりたい人、ワクワクしたい人、ぜひ一読ください!

(談) 聞き手・井上光悦

「読書三昧」は5人が交代でお薦めの本を紹介、毎週火曜日に掲載します。水田美由紀さんは今回で終わります。

みずた・みゆき 倉敷市出身。岡山大学法学部卒。1991年、岡山弁護士会入会。96年4月、水田法律事務所(現鳥城総合法律事務所)開設。2016年4月から1年間、岡山弁護士会長として活躍した。現在、岡山市ふれあい公社副理事長を務め、高齢者問題にも関心を持つ。高校生の時に読み、主人公に魅了されたアガサ・クリスティの推理小説「ミス・マーブル」が、弁護士を志すきっかけの一つになった。